

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校

「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れ、情操豊かな生徒の 進路実現を叶える学校

めざす学校像を4つのキーワードで示す。

「鍛える」… 生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長する 学校

「極める」… グローバル社会で活躍する高い学力をつける 学校

「繋がる」… 互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する 学校

「描く」… 将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献のできる人材を育成する 学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力の育成

(1) 泉陽(学習の)スタンダードを作成し教科指導の指針とする。

(2) 授業改善：生徒による授業評価（年2回）。教員相互の授業見学・評価（年2回以上）。授業力向上のため研究授業を含めた教科内研修の実施。外部者への授業公開と評価。単焦点プロジェクトも活用しアクティブラーニングを推奨する。

(3) 組織的課外講習・補習の実施：各教科・進路部・教務部が連携して、必要な課外講習・補習を集約して実施。

※【目標】 学校教育自己診断での授業改善関連項目の肯定的解答率 の向上

泉陽スタンダードを完成させ、授業アンケートの評価とリンクさせる。

平成 26 年度学校経営推進費支援校に決定した事を踏まえ、英語教育の充実をめざす。

具体的には、LL 教室を整備しタブレット端末を使って英語 4 技能の能力を向上させる。

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 高い志はぐくむ進路指導の充実。早期から積極的にキャリア教育を実施し、将来像を描かせ生徒のモチベーションの高揚を図る。

(2) 教育産業の教育ツール・OB 大学生等の活用：学力指標として全国模試の活用。ICT 教育ツールの活用。OB 大学生・大学生インターンシップの活用。

(3) 読書活動を推進し幅広い教養を育成する。

※【目標】 卒業生の 国公立大学現役合格者/卒業生＝前年比 5%アップ。模試結果等を活用した教科別学力検討会及び全体研修会。

アンケートの進路指導関連項目の肯定的評価を 3 年後に 80%に(H25 は 70%)

本校の読書活動にたいする満足度を 3 年後には 80%に

3 国際社会のリーダーにふさわしい見識と情操を育てる。

(1) 部活動・学校行事への参加を通じ、リーダーシップやパートナーシップを身につけさせ、協力協働の社会的精神を育てる。

(2) 生活指導や学校教育活動全般を通じ、望ましい生活態度や豊かな感性を身につけさせ、社会のリーダーにふさわしい情操を育てる。

(3) 国際社会で生き抜くための「英語力」を育成する。母国語の知識・論理・情緒を内包したうえで、4 技能のバランスを考慮した英語教育を実施する。

※【目標】 3 年後、部活動参加率 90%超を維持、学校教育自己診断で学校行事満足度 90%超

「一部活動＝社会奉仕運動」実現、特別指導案件ゼロ。

3 年後の英語力のめやすは、本校生徒の約 90%が受験する大学入試センター試験「英語」で、本校生の得点平均 80%超で達成評価。

4 チーム泉陽として課題解決にあたる素地を教員集団の中に育成する。

※【目標】 オール泉陽で課題解決にあたる。ベテラン教員から経験の少ない教員へ、教師力の育成を図る。「泉陽勉強会」の開催。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析【平成 26 年 12 月実施分】	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>「教材や教え方に工夫…」に対して1年生は80%3年生は67%となっている。「考えをまとめたり発表する授業…」の項目では3年生では27%と低いが、1年生は68%、2年生も50%となっており、学年間の格差は大きいもののアクティブラーニングの授業は進捗しつつある。</p> <p>「学校だけで、進路達成に必要な学力が身に付く」には生徒が54%、教員は84%、逆に「塾・予備校は学習に役立っている」の項目では生徒が91%、教員は59%の肯定的な結果であり、生徒の期待する授業・講習の実現には、今後一層の努力が必要である。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>「大学生卒業生のお話を聴く機会」「社会で活躍するリーダーから話を聴く機会」項目では23年生平均38%に対し、1年生では65%と高評価である。今年度から始めた新進路指導（早期からのキャリア教育）の成果といえる。</p> <p>「気軽に相談できる先生がいる」の項目は、昨年度から6ポイント、「生徒の悩みや相談に親切に…」の項目では4ポイントの上昇があった。教員の肯定感は87%と高く、本校の教育相談機能は充実してきているが、今後も生徒への働きかけを工夫していきたい。</p> <p>【学校運営】</p> <p>「部活動や生徒会活動」に対しては生徒から平均80%の肯定的な評価がある。施設設備に関しては60%に留まり、校舎の老朽化による教育環境の悪化が否めない。</p>	<p>第1回（7/10）</p> <p>○平成 25 年度進路実績について 国公立大学への現役合格者数の大幅増に関して高い評価をいただいた。一方私立大学や専門学校への進学希望者に対しても細やかな指導を続ける、大学進学後の事まで見通した進路指導が重要であるとのご意見を頂戴した。</p> <p>○平成 26 年度学校経営計画について 高い学力の育成・個々の生徒の進路指導・情操豊かで国際性に富んだ生徒の醸成を 3 本柱とした経営計画に対して、「学校の目標を生徒にどう伝えるかが重要である」「学校の目標を知った上で生徒が入学してくる形が望ましい」とのご意見をいただいた。各取組みを点では無く線で拝見したいとお言葉を頂戴した。</p> <p>第2回（12/4）</p> <p>○学校経営計画の進捗状況 アクティブラーニング及び単焦点プロジェクトの活用を通して、授業に関して大きく変換して行うこととする取組みを紹介し、高く評価いただいた。キャリア教育の取り組みは今年度からの実施であり「3 年後の成果に期待したい」とのことであった。</p> <p>第3回（3/1）</p> <p>○学校教育自己診断アンケート結果 老朽化した施設設備に関する意見が多数記入されていた。府レベルでの改善が必要。</p> <p>○学校経営計画の自己評価 学区撤廃によって受験する生徒の地域が拡大した事は評価する。泉陽の現状が引き続き良い方向に向かっている表れであり、今後はその分析も必要である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
グローバル社会を生きぬく高い学力の育成	<p>学力向上策の実施 授業改善 アクティブラーニングの実施</p>	<p>ア泉陽スタンダードの策定により、教科として、泉陽生につける力の統一をはかり、質の高い授業を提供する。 イ教室に設置された単焦点プロジェクタの活用も含め、アクティブラーニングを積極的に導入。 ウ教科内での研究授業および互見授業を推進し、また教育センターのパッケージ研修も活用し互いの授業力向上を図る。 エ組織的課外講習の実施。各教員のボランティアのみに頼るのではなく、教科としての必要性を基に、教科・学年・学校全体として実施する。 オ学力指標としての全国模試等の各学年全員受験を推進する。 カ家庭学習（自ら学習する時間）の向上をめざす。 キ学習室を整備し(図書館を含めて)、校内で自習可能な環境を保障する。 ク導入したICT学習支援ツールの具体的な活用モデルを示し、「学習と部活の両立」を側面から援助する。生徒の学習ニーズにきめ細かく対応する支援ツール、授業や課外講習で教員がカバー仕切れない部分の補完とする。 ケ導入したタブレットを使って英語の少人数授業の大幅な改善を図る。</p>	<p>ア全教科で泉陽スタンダードの作成。 イ教科ごとに年1回以上の研究授業を実施。 ・年間2回の授業アンケートで、1回目に比して2回目での授業担当者のポイント0.2アップ(4点満点)をめざす。 ウ互見授業は全教員、年2回以上が目標。評価シートを授業担当へ提出。 ・学校教育自己診断項目「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」を73%以上に(前年70%)。 エ学年毎に講習年間計画を作成。 オ各学年1回以上実施。 カアンケート調査で家庭学習時間を点検し、学年プラス1時間(宿題の時間も含めて1年生2時間、2年生3時間、3年4時間)をめやすとする。 キ「休日の学習室の開放は役立っている」の項目を79%以上に(前年度77%)。 ク「ICT学習支援ツールは学習に役立っている」の項目を60%に(前年57%)。 ケ授業アンケートにより、英語の授業に対する満足度を65%に(前年57.6%)。</p>	<p>ア今年度の蓄積の下に2~3年で完成度の高いものへと改訂したい。(○) イ各教科1~3回の研究授業を実施。(○)授業アンケート結果平均値は2回分に差異は生じなかった。(△) ウ互見授業の平均2回は達成(○) ・「教材・教え方の工夫」の項目は71.2%(△) エ講習の年間計画は教科ごとに策定(△) オ実施済み(○) カ平均、1・2年では学年と同等、3年では学年プラス1時間であった。(△) キ「休日の学習室の開放…」は68.8%(△) ク44.4%の結果となったが、受講していない生徒も回答している。(△) ケ10月中旬の導入となり十分な活用は未だ。(△)</p>
	高い志をもち、すべての生徒の進路実現をめざす	<p>進学指導の充実 読書活動の推進</p>	<p>ア総合的な学習の時間を活用し早期からのキャリア教育を重視し、生徒のモチベーション高揚を図る。学部学科選択のためのガイダンスを行いオープンキャンパスへの積極的な参加を促進する。 イ活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話を推奨する。 ウ入試問題研究担当・入試動向研究担当を立ち上げる。 エ全国模試の分析を進路指導部で行い、教科での分析結果と合わせて職員研修を実施し、情報の共有化を図る。 オ学力検討研修や進学指導研修を充実し、教員の進学指導能力の向上を図る。 カOB大学生や教員志望の大学生を学生チューターとして導入する。教員とは異なる側面から、生徒の学習支援や進路相談に活用する。 キ学校推薦図書として「泉陽の500冊」を策定。 ク朝読の実施による読書習慣の確立。</p>	<p>ア1・2年でのオープンキャンパスへの参加を推奨。 イ「卒業生の話を聞く機会が多い」の項目を50%以上に(前年44%) ・学部紹介・職業研究のための講演会を12年次に5回/年以上実施。 ウ・エ・オ・カ ・国公立大学現役合格者/卒業生=前年(32%)を維持する。 ・2年生1月時点の志望校(センター試験模試での志望校3校)に、1年後50%以上が現役合格していること。 ・全国模試結果について、年2回以上の学力検討会を開催する。 ・生徒・保護者アンケート評価で、進路指導の充実度75%以上をめざす。(前年70%) ・大学入試センター試験で評価。受験者平均点前年比5%アップ。全国平均以下層の解消。 キアンケート結果で「読書活動の推進」の項目を70%に(前年60%)。 ク読書活動に対する満足度を65%に(前年58%)。</p>
社会のリーダーにふさわしい 自覚と情熱を育む。		<p>部活動の活性化 学校行事の充実 望ましい生活態度 国際交流等の促進 発表能力の向上 英語力の向上 人権教育の体系化</p>	<p>ア「進学校における部活動」の観点で、学習時間保障と部活動との関係を再構築する。進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境を作る。 イ学校行事に対する、生徒の自主的関与を深め、「自主的な学校行事」を促進する。 ウ清掃活動を始め、部活動ごとのボランティア活動を推進する。 エ「遅刻ゼロ」運動。不必要な遅刻を限りなく減少させ、学校生活の充実を図る。 オ「自分からあいさつ」を推奨する。 カ修学旅行、イギリス語学研修、海外留学等で海外を見聞する機会を設ける。訪日団体や留学生の受け入れに前向きに取り組む。 キ授業、集会、説明会等を活用し、生徒が人前で堂々と発表する機会を積極的に拡大。 ク3年間を見通した人権教育を行う。 ケ中学校訪問をはじめ、引き続き府下全域への積極的な広報を実施する。</p>	<p>ア生徒・保護者アンケート評価で、「学習・部活動の両立ができた」の項目を70%以上に。 イアンケート評価で「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の項目の肯定感の80%超を維持。 ウ部活動1部につき1つ以上のボランティア活動を実施。 エ特別指導ゼロ。生活の緩みからの遅刻数ゼロ。 オアンケート評価で肯定的な回答が70%超。 カ海外研修参加者を中心に英語によるプレゼンテーション大会を1回以上実施する。 キ全国大会で活躍した出場生徒による発表・報告会を1回以上実施する。 クアンケート評価で、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目の肯定感を65%に(前年60%)。 ケ本校の教育活動を前面に打ち出した学校案内を基に3学区を中心に積極的な広報活動に努め、3学区からの受験者数を前年比30%増にする。</p>